

建設サービスや機械設備の供給にビジネスチャンス(オーストラリア)

— ANZ 銀行在日代表インタビュー —

シドニー発

オーストラリアの 4 大銀行の 1 つオーストラリア・ニュージーランド銀行(ANZ)の在日代表に 5 月 1 日就任したピーター・デイビス氏に、同行の対日戦略、豪日ビジネス関係やビジネスチャンスについてインタビュー(4 月 30 日)した。同氏は、鉱業とインフラ関連ビジネスにおいて日本企業の活躍が期待され、特に、建設関連のサービスや機械設備の供給が有望だと語った。

<ANZ は日本で 40 年以上の活動実績>

ANZ は、オーストラリア政府の 4 大銀行政策に基づく銀行で、東南アジア、欧米、中東および太平洋諸国の 32 カ国に海外拠点を設置している。日本では、1969 年に東京に駐在員事務所を開設。85 年には駐在員事務所を支店化して日本での営業を始めた。その後、90 年に大阪支店を設置して西日本での営業基盤を拡大し、2010 年には名古屋出張所を開設した。

<東京支店は日系企業の海外展開をサポート>

問:これまでの業務経験は。

答:直近では、ANZ の法人部門で電力・インフラセクターのグローバル責任者を務め、両国経済関係者の集まりである豪日経済委員会(AJBCC)のインフラ計画部を通じ、日本のビジネス界との関係を深めてきた。2011 年 3 月には AJBCC が主催した日本との合同インフラミッションに参加したほか、11 年 5 月に実施されたインドネシアへの合同インフラミッションにも参加している。両国間のさまざまな活動に参加してきたが、インフラ関連が中心だった。今後もインフラに関連した資機材の調達では、2 カ国で協力した第三国での市場参加が特に重要だと考えている。

問:ANZ の日本における活動・ビジョン・戦略と、東京がアジアの重要拠点となる理由は何か。

答:当行の主要な戦略地域は、急速に経済が拡大するアジア全域だ。この戦略は、本店の取締役会でも強力に推進している。現状では、オーストラリア企業はアジアでの主要プレーヤーになっていると言いはない。(アジアにおいても)グローバル規模での取引が主流となっているからだ。

多国籍企業にとって東京は、ニューヨーク、ロンドンに匹敵する経済都市だ。当行は、オーストラリアと

アジアで活躍する多国籍企業との関係を構築・維持するために、東京に拠点を置いている。当行は日本企業との取引でも日本以外の国でのビジネスによって大きく成長するだろう。20 年ほど前、各国の本社レベルでの海外取引は可能だったが、今やグローバルな取引は必須となった。当行のニューヨークやロンドンの支店が、アジア・太平洋地域で活躍する多国籍企業をサポートする時代だ。

<経済関係は大企業を中心に緊密>

問: 両国経済関係の発展については。

答: 日系企業の中には、オーストラリア企業との間で、歴史的に長く、深い関係を構築している企業がある。両国間のビジネス関係ほど強い 2 国間関係は恐らくないと思っているが、そのほとんどは大企業を中心とする関係だ。

今後、中小企業レベルで 2 国間関係を深めることが重要であり、特に、オーストラリア企業が日本市場の理解を一層深める必要がある。当行は東京支店を持つことで、この役割を担っている。在オーストラリアの日系銀行とも協力して、投資を促進しなければならない。

<鉱業・建設の専門技術でオーストラリアにビジネスチャンス>

問: 日系企業にとってビジネスチャンスはどの分野にあるか。

答: 現在、鉱業とインフラ、特に、建設関連サービスと機械設備の供給は大いに期待できる分野だ。日系企業は、専門知識をオーストラリア市場に適応させれば成功するだろう。

例えば、1990 年代の中国で、日系企業とオーストラリア企業は同様に活躍していたが、現時点では、日系企業の業績がオーストラリア企業を上回っている。この違いは、日系企業は中国市場を理解し、専門知識を中国市場に適応させ、成功したからだ。一方オーストラリア企業は、自らの商慣習などを持ち込んだため、日本企業と比べて業績が上がらなかった。

問: 一部の日系企業からオーストラリアは「規制が厳しく、人件費が高い」といった心配の声が上がっている。

答: 外国企業には海外の規則が厳しくみえるようだが、これはどの国でも同様ではないか。オーストラリアは人件費が高いのは事実だが、外国人投資家はそれを理解して投資する。そうした要素も考慮に入れつつ、市場に適応できる専門技術などがあれば、成功するだろう。

<オーストラリアとアジア間の投資は活発化>

問: オーストラリアとアジア間の投資全般について今後の見通しは。

答: 中国およびインドとオーストラリア間で活発化するのには確実だ。

日本企業は、これまでオーストラリア国内での投資に成功しているが、主に酒類や乳製品が中心だ。今後、ほかのアジア諸国からオーストラリアへの投資が一層増えると考えるのが自然だ。現在、アジア諸国からの投資は、製造業を除いて活発化している。

(ラーイッチ・ピーター、込山誠一郎)

(オーストラリア)